

件 名

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における学力検査問題の出題の基本方針並びに学力検査の実施教科及び出題範囲について

提出理由

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における学力検査問題の出題の基本方針並びに学力検査の実施教科及び出題範囲を決定したので、別紙のとおり報告します。

概 要

1 学力検査問題の出題の基本方針

2 学力検査の実施教科及び出題範囲

3 その他

数学及び英語については、校長から届出のあった23校において、学校選択問題（一部に応用的な内容を含む学力検査問題）を出題する。

1 令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における学力検査問題の出題の基本方針

- (1) 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。
- (2) 基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題の出題に配慮する。
- (3) 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように、出題の内容及び出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めるよう配慮する。

※ なお、出題形式は令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜より、解答方法にマークシート方式を導入する。各教科での出題形式の割合は、得点に換算して、マークシート方式の問題が9割程度、記述式の問題が1割程度とする。（令和7年7月公表済）

2 令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における学力検査の実施教科及び出題範囲

(1) 実施教科

国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。

(2) 出題範囲

中学校学習指導要領に基づいて出題する。なお、英語には、リスニングテストを含む。

3 その他

数学及び英語については、校長から届出のあった23校において、学校選択問題（一部に応用的な内容を含む学力検査問題）を出題する。

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜の学力検査において、数学及び英語の学力検査問題を「学校選択問題」で実施する学校は以下の23校である。

	学校名	学校選択問題を 実施する教科	備考
1	浦和高等学校	数学・英語	全日制課程
2	浦和第一女子高等学校	数学・英語	全日制課程
3	浦和西高等学校	数学・英語	
4	大宮高等学校	数学・英語	
5	春日部高等学校	数学・英語	全日制課程
6	川口北高等学校	数学・英語	
7	川越高等学校	数学・英語	
8	川越女子高等学校	数学・英語	
9	川越南高等学校	数学・英語	
10	熊谷高等学校	数学・英語	全日制課程
11	熊谷女子高等学校	数学・英語	
12	熊谷西高等学校	数学・英語	

	学校名	学校選択問題を 実施する教科	備考
13	越ヶ谷高等学校	数学・英語	全日制課程
14	越谷北高等学校	数学・英語	
15	所沢高等学校	数学・英語	全日制課程
16	所沢北高等学校	数学・英語	
17	不動岡高等学校	数学・英語	
18	和光国際高等学校	数学・英語	
19	蕨高等学校	数学・英語	
20	さいたま市立浦和高等学校	数学・英語	
21	さいたま市立浦和南高等学校	数学・英語	
22	さいたま市立大宮北高等学校	数学・英語	
23	川口市立高等学校	数学・英語	

※ 令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における制度変更の概要（令和6年9月公表済）

1 調査書の様式変更と自己評価資料の提出

調査書の記載項目は「各教科の学習の記録」（9教科5段階の評定）、「総合的な学習の時間の記録」とする。

全ての受検生が、自己評価資料を提出する。

2 面接を全ての受検生に実施

自己評価資料を参考に、全ての受検生に個人面接又は集団面接を実施する。受検生がこれまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、また高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて、自らの言葉で表現する。

3 選抜の特色化

県教育委員会が定める方法で選抜する共通選抜と、学科等の特色に応じて各高等学校が定める方法で選抜する特色選抜を実施する。

令和7年8月	面接についてのリーフレット	(公表済)
令和8年3月	令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における面接に係る資料	(公表済)
令和8年5月	令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施要項・選抜要領	公表予定
〃	各高等学校の選抜実施内容	公表予定

出題の基本方針の変遷

○平成6年度入試まで

- 1 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について出題する。
- 2 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように出題し、記述による解答を求めるよう配慮する。
- 3 受検者が十分に考えて解答できるように、出題の内容、出題数等について配慮する。

○平成7年度入試から

- 1 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について出題する。
- 2 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように出題し、記述による解答を求めるよう配慮する。
- 3 受検生の思考力、判断力、表現力等がみられるように、出題の内容、出題数等に

ついて配慮する。

○平成22年度入試から

- 1 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。
- 2 基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題の出題に配慮する。
- 3 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように、出題の内容、出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めるよう配慮する。

○令和4年度入試から現在

- 1 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。
- 2 基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題の出題に配慮する。
- 3 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように、出題の内容、出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めるよう配慮する。

出題範囲等の変遷

○平成21年度入学者選抜までの出題範囲等

1 実施教科

(1) 後期募集

国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。ただし、教科選択試行実施校については、別に定める。

(2) 二次募集

国語、数学、英語の3教科とする。

2 出題範囲

中学校学習指導要領に示された内容の範囲から出題する。なお、後期募集における英語は、リスニングテストを含む。

※ 前期募集は調査書、面接等を資料とする自己推薦型の選抜。

○平成22年度入学者選抜からの出題範囲等

1 実施教科

(1) 前期募集

国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。

(2) 後期募集

国語、数学、英語の3教科とする。

2 出題範囲

中学校学習指導要領に基づいて出題する。なお、英語には、リスニングテストを含む。

○平成24年度入学者選抜からの出題範囲等

1 実施教科

国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。

2 出題範囲

中学校学習指導要領に基づいて出題する。なお、英語には、リスニングテストを含む。

○平成29年度入学者選抜からの出題範囲等

数学及び英語の学力検査は、学校の希望により学校選択問題（一部に応用的な内容を含む学力検査問題）を実施できることとした。

○令和3年度入学者選抜の出題範囲等

中学校第3学年の学習内容に限り、次のとおり出題範囲の配慮を行う。

教科	配慮の内容
国語	次の内容は出題しない。 ・第3学年における言葉の特徴やきまりに関する事項のうち、慣用句・四字熟語などに関する知識 ・県内市町村立中学校で使用している第3学年の教科書で学習する漢字の読み書き

社会	<p>公民的分野において、次の内容は出題しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちと経済 ・ 私たちと国際社会の諸課題
数学	<p>次の内容は出題しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相似な図形のうち、日常生活で相似な図形の性質を利用する場面 ・ 円周角と中心角 ・ 三平方の定理 ・ 標本調査
理科	<p>第1分野において、次の内容は出題しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術と人間 <p>第2分野において、次の内容は出題しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球と宇宙 ・ 自然と人間
英語	<p>次の内容は出題しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞のうち、主格の that、which、who 及び目的格の that、which の制限的用法（接触節も出題しない。） ・ 主語＋動詞＋what などで始まる節（間接疑問文） <p>※ただし、教科書で扱う語彙はすべて出題範囲とする。</p>

○令和4年度入学者選抜から現在の出題範囲等

1 実施教科

国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。

2 出題範囲

中学校学習指導要領に基づいて出題する。なお、英語には、リスニングテストを含む。